

経営理念

1. 私達は、**お客様第一主義**の精神で尽くして参ります
2. 私達は、**会社第一主義**の精神で永続を誓います
3. 私達は、**従業員第一主義**の精神で幸せを獲得します
4. 私達は、**安全第一主義**の精神で事故ゼロを目指します
5. 私達は、**収益第一主義**の精神で利益を上げ続けます

春の足音が聞こえる

(有)松本産業 代表取締役 松本成士

春の足音が聞こえる。ところが大変なことが発生しました。東日本大震災です。これから日本はどうなるのでしょうか。いまだかつて経験したことのない大地震です。予測は立ちません。とはいうものの、松本丸は着実に航海することです。

今期の売上目標は必達 4 億円です。おかげで順調に売上は推移しています。これからは東日本大地震の影響でどうなるか分かりません。私の気持ちとしては復興に協力する為、全車両を投入してお役に立ちたいところです。1000 年に 1 回の大地震に我関せずではなく、全力で力になりたく思います。街ごと水没している状況を見るにつけ

心が痛みます。天災の怖さを実感しているところです。死者・行方不明者数は数万人といわれています。心からお悔やみ申し上げます。とはいうものの、松本丸は足元を固めて“生きている限りは生き抜く”との強い覚悟で春を迎えます。

私の覚悟は、必ず利益率 5% を達成することです。その為には事故ゼロ、クレーム・トラブルゼロを目指していきます。幸いにも今年に入って大きな事故やクレーム・トラブルもなく推移しています。さらに松本丸の乗組員は大家族主義で仲良くやっていきたいと念じています。時には厳しく叱ることがありますが、愛情の叱責ということで受け止めて下さい。そして何よりも報・連・相＝コミュニケーションを良くしていきましょう。悩み事や困った事があれば気楽に私に相談して下さい。助けたり、助けられたりの精神でチームワークを大事にしていきましょう。

たしかに春の足音が聞こえますが、世の中は大変なことになっています。これからどうなるのでし



ようか。「松本丸」の船長として気が引き締まります。私の好きな言葉のひとつに“一日一生”という言葉があります。一日を全力を尽くして一生の如く生きるという意味です。世の中はいろいろあります。“生きている限りは生き抜く”という覚悟で頑張ります。皆さん、今こそ力を合わせて頑張らしましょう。

以上

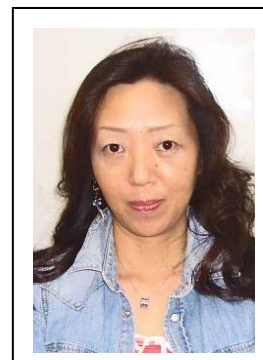
幸せは歩いてこない

(有)松本産業 専務取締役 松本恵子

今までは私が配車中心でしたが、現在は伊藤部長が中心となっています。その分、私としてはホッとしています。ホッとするだけではいけないので、その分今まで手薄になっていたことをしっかりとやっています。

松本丸は停滞していません。常に前へ前へと進んでいます。船長についていくのは大変ですが、パートナーとしてしっかりとついていきます。私がいつも念じていますのは無事故です。事故は、起こした本人はもとより、周りも大変です。一日何事もなく終わるとホッとします。どうか皆さん一人一人が無事故を誓って実行して下さい。その為には小さな事をコツコツと実行して下さい。幸せは歩いてはきません。だからこちらから掴むことです。三步進んで二歩下がっても、一步は進むのです。1、2、3と念じて進んでいきましょう。

どんなことがあっても前へ進む気持ちさえあれば、何かあっても大丈夫です、心の中で1、2、3と言いながら「無事故」を念じて進みましょう。幸せは歩いてこないのです。だからこそ、こちらから幸せを掴んでいきましょう。



幹部メンバー紹介



私は配車部長の伊藤です。体調に留意して頑張っています。ドライバーの皆さん、「安全第一」で頑張りましょう。これからは予測として大繁盛になると思います。今こそ松本丸としての底力=魂を発揮しましょう。



私は取扱配車の松永です。長年の経験を生かして頑張っています。よろしくお願ひします。車と人も足りなくなると思いますが、今こそ力の見せ所です。伊藤部長と力を合わせて頑張ります。



私は刈谷営業所の所長の吉見です。小さな車両から重トレまで、何でも手配いたします。とりあえずは「はい」という返事からスタートします。私にできないことはないとの精神で仕事をやり抜きます。よろしくお願ひします。



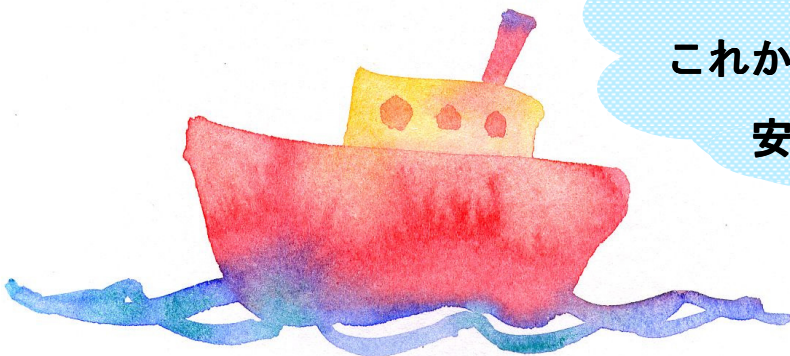
松本丸のメンバーです。

皆で力を合わせて頑張ります。

一人一人がスマイルで人生を送れるように頑張っています。

いつも明るい松本丸をモットーに、
これからも頑張っていきます。

安全第一を誓っています。



「ハインリッヒの法則」をご存知ですか？

建設業や製造業、保険業等の方でしたら概ねご存知のことと思われそうですが、これは、労働災害の事例の統計を分析した結果、導き出された法則です。

1 件の大きな事故・災害の陰には、29 件の小さな事故・災害があり、さらにその陰には 300 件のヒヤリ・ハット（事故・災害には至らなかったが、ヒヤリとしたり、ハットとした事柄）があるというもので、1：29：300 の法則とも言われます。この法則は、何も労働災害に限った話ではありません。

例えば、飲食店での具体例で考えてみますと、ホールスタッフが熱々のスープをお客様にこぼしてしまい、火傷を負わせてしまった。

これは非常に大きな事故です。その陰には、スープを床に数滴こぼしてしまった等の軽いミスが 29 件あり、さらにその陰にはスープ皿が傾きこぼれそうになった、という「ハッ」とした事柄が 300 件隠れているのかもしれませんが。

また、人事管理においても同じ事が考えられます。1 人の問題社員がいるとすれば、その陰には会社に対して不満を抱える 29 人の問題社員予備軍がいて、さらにその陰には…。

このように、ハインリッヒの法則は、あらゆる事に当てはめて考える事ができるのです。

重大な事故の発生を防ぐためには、日頃の細かいミスや不注意、その他の“火種”を見逃さずに、きちんと対策を講じることが必要であることは言うまでもありませんが、「ヒヤリ・ハット」の段階では問題が顕在化していないため、どうしても、その対策は後回しになってしまいがちです。

しかしながら、何も起きていない今だからこそ、業務プロセスを見直したり、情報管理や、社内ルールの徹底など、リスク対策についての見直し・強化が必要なのです。

「備えあれば憂いなし」。まずはリスク対策の足掛かりとして、「ヒヤリ・ハット」の洗い出しから始めてみてはいかがでしょうか。

